

# ～輝きの子育て～

## 子は親の鏡

子どもは、いつも親の姿を見ています。ああしなさい、こうしなさいという親の躰の言葉よりも、親のありのままの姿のほうを、子どもはよく覚えています。親は、子どもにとって、人生で最初に出会う、最も影響力のある「手本」なのです。子どもは、毎日の生活のなかでの親の姿や生き方から、良いことも悪いこともすべて吸収してしまいます。口で何かを教え込もうとしてもダメなのです。親がどんなふうに喜怒哀楽を表すか、どんなふうに人と接しているか。その親の姿が、手本として、子どもに生涯影響力を持ち続けることになるのです。

子どもは、みな個性豊かです。自分で何かを創り出し、自分でものを考える力を持っています。親としての真の喜びは、その子の個性をのばし、生き生きした毎日を送ることができるように見守ることではないでしょうか。

子どもは、大切な家族の一員です。子どもは、自由で発想豊かです。そんな子どもの心を知れば、わたしたち親もまた、子どもと共に成長し、学ぶことができます。家族の絆を深めることができるのです。

## 子どもの言葉に耳を澄ませる

子どものことをよく知るいちばんいい方法は何だと思われますか。それは、子どもとコミュニケーションをとることです。

小さいときには、まなざしで語りあい、もう少し大きくなれば言葉を使って語りあえるでしょう。子どもと話すときには、上の空ではいけません。集中して相手になってあげましょう。大事なのは、子どもの言葉を聞くことです。子どもの心が発しているメッセージを聞き取ることはもっと大切です。ただ聞いているだけで、ほんとうにはわかっていない、ということもあるので。それでは子どもとほんとうに話していることにはなりません。

「話を聞くときには、三度聞く必要がある」

最初は聞く、次に聞くときには意味を理解する、その次にはほんとうに相手の言いたいことを察して受け止めてあげる、というわけです。

子どもとコミュニケーションをとるには、まずよく聞くこと、子どもの言うことに本気で耳を傾けること、そして子どもが真に伝えようとしていることをわかってあげることが必要なのです。

子どもが何も言わなくても、心の中に何か抱えている、くじけてしまっているということもあるでしょう。難しいですけど、できるだけ、それに気づいてあげてください。それが子どもに目を向けるということです。

そして、気づいたときには心を開いて話し合ってほしいのです。

子どもはわたしたち親のすることを見ているだけではなく、わたしたちが思う以上にわたしたちが言う言葉を聞いています。だから、わたしたち親が口にする言葉は、どうすれば今いちばんこの子の力になれるか、という心の中の智慧から発した言葉でなくてはなりません。

そして、わたしたち親は、日頃から、子どもの努力を認め、うまくいかないときには、励ましてあげなければなりません。

片野 英子

参照 「いちばん大切なこと」

ドロシー・ロー・ノルト著 吉田利子＝訳